

第2期



自分ごと化会議 in 松江 からの 5つの提案

～自然エネルギーってどげかね？～

市民参加者
一同



**「第 2 期自分ごと化会議 in 松江」からの
5つの提案
～自然エネルギーってどげかね?～**

2021年 9月 18日

「第 2 期自分ごと化会議 in 松江」市民参加者一同

目次：

1. はじめに————— 2P

2. 第2期自分ごと化会議 in 松江の概要————— 3P

3. 「第2期自分ごと化会議 in 松江」からの5つの提案————— 4P

～ はじめに ～

私たちは2021年2月から2021年9月まで、6回にわたって「第2期自分ごと化会議 in 松江」の市民参加者として「自然エネルギーってどげかね？」をテーマに話し合ってきました。

当初、会議では「自然エネルギー」（再生可能エネルギー）という言葉はよく耳にするものの、その全体像や具体的な効果、課題についてはよく知らないという人が多くいました。それだけに「自分ごと」にしにくい分野だったと言えるかもしれません。

しかし、第1回にご参加いただいた河野太郎規制改革担当大臣をはじめ、政治、行政、研究者、そして現場で事業を担っている方などから、様々な視点で自然エネルギーについての話をお聞きし、理解が深まりました。

それらの話を踏まえたうえで議論を重ねました。新型コロナウイルス感染拡大による会議の延期やオンラインによる実施など、当初の予定からの変更を余儀なくされたこともあり、途中、この議論が一体どこに向かうのか不安になることもありました。最終的には5項目の提案をまとめることができました。

予定では5回で終了だったところ、最後のとりまとめのために私たち市民参加者の満場一致で「延長戦」の第6回が行われました。これは市民グループが主催している会議らしい柔軟性だと思います。予定調和の会議ではなく、市民による対話によって創り上げていくという「自分ごと化会議」の理念が貫かれている証拠ではないかと感じています。

今後、この提案をさらに深め、実現していくためには、すべては難しくても、松江市や島根県、国といった行政のみならず、自然エネルギーを扱う事業者に対しても提案内容をご理解いただけることが必要です。「自分ごと化会議 in 松江」実行委員会としてもフォローアップをしてもらいたいと思います。

また、このような多様な議論の場を市民として継続すること、さらに提案にあるように行政主催の自分ごと化会議を行うことも、大変重要です。

これらを通し、今後も自然エネルギーを「自分ごと化」する市民が増えていくことを願っています。

2021年9月18日

「第2期自分ごと化会議 in 松江」市民参加者一同

2. 第2期自分ごと化会議 in 松江の概要

第1期（2018年11月～2019年2月）では「原発を自分ごと化する」をテーマに無作為に選ばれた松江市民が議論しました。そして行政や中国電力、事業者やNPO、市民などそれぞれの立場から「原発を自分ごととしていくため」にできることを『9つの提案』としてまとめました。

2021年2月にスタートした第2期自分ごと化会議 in 松江では「自然エネルギーってどげかね？」をテーマに、新たに無作為抽出した松江市民による議論が行われました。

会議参加者

※所属は会議に参加した当時のもの

市民参加者	・無作為抽出市民 19名*1 + 島根大学学生 5名の合計 24名 *1 住民基本台帳より無作為に選ばれた約 2,000名の中から応募のあった方
コーディネーター	・伊藤 伸 氏（構想日本 総括ディレクター） ・長曾我部 まどか 氏（まちづくりファシリテーション研究会）
基調講演	谷口 武俊 氏（東京大学 名誉教授、公共政策大学院 客員教授）
アドバイザー・オブザーバー	専門家の立場から議論にあたっての論点の提示や話題を提供する役割 第1回 河野 太郎 氏（衆議院議員、規制改革・行政改革担当大臣） 第1回 廣瀬 浩三 氏（経済産業省 資源エネルギー庁 省エネ・新エネ部新エネルギー課 課長補佐（統括）） 第1回 歌川 学 氏（国立研究開発法人 産業技術研究所 主任研究員） 第2回 吉岡 英志 氏（松江市 環境保全部 環境政策課 課長） 第3回 山田 正人 氏（内閣府 規制改革推進室 河野大臣直轄チーム 参事官） 第4回 森 真樹 氏（ローカルエナジー(株) 専務取締役 統括部長）

各回会議概要：

日時	内容
第1回 2021年 2月 7日（日）	自分ごと化会議 in 松江の概要説明、基調講演、アドバイザーからの話題提供、委員の自己紹介など
第2回 2021年 3月 7日（日）	テーマについて全体で協議、アドバイザーからの話題提供、「改善提案シート」の記入 など
第3回 2021年 4月18日（日）	「中間とりまとめ」についての議論協議、「改善提案シート」の記入
第4回 2021年 5月30日（日）	「中間とりまとめ」についての議論協議、アドバイザーからの話題提供、「改善提案シート」の記入 など
第5回 2021年 7月 4日（日）	「提案書（素案）」について議論、「意見提出シート」の記入 など
第6回 2021年 9月18日（土）	「提案書（案）」について議論 など

3. 「第 2 期自分ごと化会議 in 松江」からの 5つの提案

本提案は、これまでの自分ごと化会議で市民参加者が記載した「改善提案シート」「意見提出シート」の内容や議論を基に作成しました。

提案

- 自然エネルギーの普及に向けて、それぞれの立場でできることから始めつつ、そこで見えてきた様々な視点での自然エネルギーのメリット・デメリットについて、市民全体で共有する。

提案

- 自然エネルギーの地産地消がどこまで実現できるのか、具体的な方策を検討する。その際、「地域」をどういった範囲で捉えるか（松江市、山陰など）を併せて考える。

提案

- 市民一人ひとりが生活の中で省エネルギーへの関心を高め、松江市全体の使用電力量や二酸化炭素排出量の削減を目指す。

提案

- 松江市の資源や特徴を活かした自然エネルギーの生産・活用を具体的に検討する。

提案

- 「自分ごと化会議」をはじめとして、まちづくりや地域課題について多様な市民が対話する場をさらに作る。

- 自然エネルギーの普及に向けて、それぞれの立場でできることから始
1. めつつ、そこで見えてきた様々な視点での自然エネルギーのメリット・デメリットについて、市民全体で共有する。

自然エネルギーをさらに自分ごと化することが普及にもつながる。自宅の電気料金や電力会社を調べるなど身の回りのことから始めつつ、安定性やコスト面、自然や景観への影響など、様々な視点から自然エネルギーを活用することの具体的なメリットやデメリットをさらに深掘りして考え、それらを市民全体で共有していく。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

- ① ネット上の簡略化された情報だけでなく、より多くの文献や資料から事実を得るよう心がける。
- ② まず現在のエネルギーにはどのような問題があるのか把握したうえで、自然エネルギーによって何が変わるのか考える（事業所に視察に行くなど）。
- ③ 自分や自分の家族、未来の子どもに、今の環境のままだと何が起こるのか、今からどう選択していくのかを考える（地球温暖化の防止など）。
- ④ 疑問点や意見があれば、行政に対してしっかり意思表示をしていく。
- ⑤ 様々な考えがあることを知ってもらうための twitter アカウントをつくって情報発信をする。
- ⑥ 松江市で自然エネルギーの資源となるものや、出来ることを調べる。
- ⑦ 設置する際に補助金等があるのかどうか調べる。設置した時に知り合いに伝える。
- ⑧ それぞれのエネルギー（太陽、風、木質バイオマス、水など）の仕組みや普及度を調べる。
- ⑨ まずは自分の家の電力会社はどこで、どのくらい使っているのかを知る。我が家でできる自然エネルギーの活用を考える。
- ⑩ 自分でも太陽光発電を使ってみる。体験を発信する。
- ⑪ 自宅で使用する電気について、自然エネルギーへの切り替えを検討する。
- ① 自然エネルギーの活用の現状について、行政との意見交換の場を設ける。
- ② 自然エネルギーに関する意識調査を地域として行う。
- ③ 自然エネルギーの利用を推進しないことでもたらされる悪影響や、自然工

私たち市民

地域

エネルギーが導入されることで変化する生活のイメージについて話し合う。

- ④ 地域の施設をエコ仕様にする。
- ⑤ 地域で使用する電気を自然エネルギーに切り替える。
- ⑥ 自然エネルギー導入による景観の影響等を具体的に話し合ったり、理想的なあり方を模索したりする。
- ⑦ 山に風力発電が並んでいることは景観の観点からどう感じるかなど、どこまで許容できるのか、話し合う機会をもつ。(一つの地域だけではなく、松江市や島根県など複数のエリアで話す機会を作る)

民間企業、 NPO 等

- ① テレビで自然エネルギー普及推進の CM を流す。
- ② 自然エネルギーを既に利用している会社を見学し、自分たちの仕事（会社）でも利用できるか、検討する。
- ③ 自然エネルギーに関する職員研修などを定期的に行う。
- ④ 自然エネルギーを使用している事をアピールする。
- ⑤ 企業の自然エネルギーの利用度合を公表する。
- ⑥ コスト比較にあたって必要な項目を HP に明記したり、自然エネルギーを利用するプランと利用しないプランの分かりやすい比較サイトを作ったりして比べやすいようにする。

自然エネルギーの発電・送配・販売等に関わる事業者

- ① 自然エネルギー導入のコスト（導入によるコストの変化など）を明確に示す。
- ② 自然エネルギーに対して賛成派にも反対派にも、丁寧な説明を心がける（リスクの考慮や環境にどのような影響があるのかなどの説明を行う）。
- ③ 景観に配慮しつつ観光にもつながるようなデザインを考える。
- ④ 自然エネルギーの発電・送配・販売等に関わる事業を地元の企業でもできるのか検討する。
- ⑤ バイオマス発電所やバッテリー揚水発電所の設置を進める。
- ⑥ 自然エネルギーをもっと効率よく生み出せるような技術を開発する。

行政

- ① 【市】 市民が自然エネルギーをどう考えているか意識調査をする。
- ② 【市・県】 他市や他県の自然エネルギーが普及している地域の事例を学び、

活かす。

- ③ 自然エネルギーの考え方や、自然エネルギーの地産地消によって市民に何が還元されるのかなど、行政の考えを市民に提示する。
- ④ 【市】自然エネルギーについての取組みをする事業所を紹介するなどして、自然エネルギーをもっと広く広告、宣伝する。メディアを活用する。
- ⑤ 自然エネルギーに関する様々な制度（企業や個人の自然エネルギーへの切り替え促進や新電力事業者への補助金など）を作る。また、既存の制度を周知する。
- ⑥ 自然エネルギーの導入に関する数十年後のビジョンを作成する。
- ⑦ 地域の話し合いをもとに景観などのガイドラインや規制をつくる。
- ⑧ 自然エネルギーの導入にあたって、景観維持と観光面との両立について検討する。（水路に小水力を設置し、観光に結びつけるなど）。
- ⑨ 災害時のライフラインの確保としても、自然エネルギーで電力を確保できる状態にすることはメリットがあるということを市民に伝えていく。

《市民参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- 自然エネルギーのメリット・デメリットを紹介するマンガを作成する。
- 自然エネルギーの普及への取組み度の公表を義務化する。
- 自然エネルギーは地域おこしのメリットにつながるなので、多少景観が損なわれても我慢する（地域おこしにつながる景観を提案していく）。
- 自然エネルギーを考えるにあたっては、エネルギーミックスの視点で「原発」を含めてエネルギーの活用を考える。

2. 自然エネルギーの地産地消がどこまで実現できるのか、具体的な方策を検討する。その際、「地域」をどういった範囲で捉えるか（松江市、山陰など）を併せて考える。

「自然エネルギーの地産地消」（地域で作った自然エネルギーを地域で消費する）は、松江市の中では実現できていない。自然エネルギー産業は新たな雇用の創出等、地域経済発展につながる可能性が高いので、市内への事業者の誘致を検討する必要がある。また、地産地消を行うにあたっての「地域」のとらえ方は、松江市、島根県、宍道湖・中海圏域、山陰など様々考えられるため、市民の納得感が最も得られる「地域」とは何かも併せて検討する。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 電力会社に売電しないで自家発電・自家消費が可能か試す。
- ② 自分でできる小さなことから自然エネルギーの地産地消を始めて、それを友人や知人に伝えて広げていく。
- ③ 自然エネルギーの地産地消への意識を高めるために、家で自家発電が勉強できる組み立てキットを子どもに与える。
- ④ 自宅の電力会社を決める時には、「（松江市内や島根県内、宍道湖・中海圏域、山陰地方など）より近い地域の中での自然エネルギーの地産地消」を行っているかどうか、意識する。
- ⑤ 家庭でも自然エネルギーの地産地消に取り組めるように、自然エネルギーを導入できるか検討してみる。

地域

- ① 自治会の中で災害時における電力確保等を考える。
- ② 地域で自然エネルギーの地産地消に取り組んでいる企業がないか調べる。
- ③ 新たな発電所・施設を作る場所について地域の問題として考える。
- ④ 地域内に自然エネルギー発電の担い手になりうる企業がないか探してみる。
- ⑤ 自然エネルギーの地産地消を行う「地域」の捉え方がぼやけないように、宍道湖・中海圏など、一定の基準を設ける。

民間企業、NPO等

- ① 地域経済への影響や市民の関心向上などについて情報発信する。
- ② 事業所の電力は自然エネルギーの地産地消に取り組んでいるところから買うことを検討する。

- ③ 自社の業務の中で、自然エネルギーの地産地消に取り組めることがないかを検討する。
- ④ それぞれの電力小売事業者が作った資料を公平な目線から比較できるような工夫を行う。

自然エネルギーの発電・送配・販売等に関わる事業者

- ① 松江でも地域の地産地消に力点を置いた会社の設立を目指す。
- ② 自然エネルギーの地産地消を意識して事業に取り組んでいることを発信する。
- ③ 市民や地域の人が「孫の世代が喜ぶ」という視点で感じてもらえるような自然エネルギーの地産地消についての企画を行う。

行政

- ① 【市】隣接市町村と相談する。
- ② 【国】最低限のルール作り（発電所からの最低限の離隔距離・地元意見の反映方法）
- ③ 自然エネルギーの地産地消が進むようにサポート等を行う（発電した電力の購入や補助金等）。
- ④ 自然エネルギーの地産地消の意義をメディア・広報誌等で発信する。
- ⑤ 自然エネルギー会社を第3セクターとして設立する。
- ⑥ 事業者と連携して、地域の住民の声を聞く。
- ⑦ 自然エネルギーの発電・送配・販売等に関わる事業を行う企業の新規立ち上げや誘致を検討する

《市民参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- 個人の判断で、柔軟にエネルギーの種類を決められるような仕組みを推進する。
- 「自然エネルギーの地産地消」は現実とかけ離れているように思っていたが、会議での議論によって少し身近に感じられた。
- 自然エネルギーの地産地消における「地域」の範囲をどこまで広げるのが妥当かということは、それぞれ地域すべてを巻き込んでみんなで考えるのがよいと思う。

提案

3. 市民一人ひとりが生活の中で省エネルギーへの関心を高め、松江市全体の使用電力量や二酸化炭素排出量の削減を目指す。

使う電力の種類をどうするかだけでなく、使う電力を減らす「省エネ」を進めることが二酸化炭素排出量の削減につながる。私たち一人ひとりがくらしの中で省エネ（消費電力を減らす、消費電力が少ないものに切り替えるなど）への関心を高め、取り組んでいく必要がある。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 家電製品の選別をするなど自分ができる省エネについて考える。
- ② 自分の生活スタイルを、省エネを意識したものに変わる。
- ③ 輸送されてきたものよりも近所でとれた農作物などを選ぶ。
- ④ インターネットやメディア等で情報を得る。
- ⑤ 省エネを通して、自分の大切な人が喜ぶことは何なのかを考える。
- ⑥ 市民がやっている省エネの取組みはマネしやすいので、自分で行っている省エネの取組みを発信する。
- ⑦ 家に植物を置くなどして自然に興味をもつ（CO₂を減らす）。

地域

- ① 地域でも省エネの重要性や考え方を市民に広めていき、地域全体に省エネの意識を高めていく。
- ② 地域の中でCO₂をどのように削減できるかを話し合ってみる。

民間企業、NPO等

- ① 【運送会社】Amazon等ネット注文がより増加すると思うので、省エネに有効な設備（燃費がよいなど）を利用する。
- ② 販売する際に省エネ商品であることを店頭でアピールしたり、メディア、情報誌等で発信したりする。

自然エネルギーの発電・送配・販売等に関わる事業者

- ① 自然エネルギーを販売する会社は、二酸化炭素の排出量制限や省エネの周知を行う。（例：1つの契約ごとに1本植樹するなど）

行政

- ① 【県や国】運送会社のCO₂削減に向けた取組みを支援する。
- ② 省エネ事業者を育成するための助成を行う。
- ③ 省エネに関する地域や市民の取組みを紹介する。

- ④ 省エネに関する行政の取組みや、省エネに取り組む事業者一覧を紹介する。
- ⑤ 【市】情報誌「エコタウンまつえ」を活用して、市民に松江が設置している自然エネルギー等の情報発信を行う。
- ⑥ 【市】温室効果ガス排出量が順調に減っていることを市民にアピールする。

《市民参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- CO2 ゼロが目的なら原発があるので自然エネルギーを積極的に導入しなくてよいのでは。

提案

4. 松江市の資源や特徴を活かした自然エネルギーの生産・活用を具体的に検討する。

松江市の地域資源を生かした自然エネルギーの普及についての意見が多くあった。例えば、松江市は「水の都」なので、小水力発電の拡大などが考えられる。松江市の特色と調和した自然エネルギーとすることで、市民の納得度が一層高まるのではないか。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 自分の住んでいる場所の特性を理解する。
- ② 松江市に適したエネルギーが何なのか、受け身ではなく、情報に触れ、考え、感じたことを実行する、言葉にして伝える。
- ③ 自然エネルギーを用いることを誇れる価値観を持つ。
- ④ 「ゾーニング」(機能別に土地を配置する)に関心を持ち、自分ごととして考える。また、考えたことを事業者や行政にしっかり発信する。

地域

- ① 地域にどんな資源があるかを考える。
- ② 自分の住んでいる場所にどんな特徴や歴史があるのかを把握し、どんな自然エネルギーが合っているのか意見を発信する。他の場所にも呼びかけて同じように取り組んでもらう。
- ③ 「ゾーニング」に関する意見調整の場としての機能を果たす。

民間企業、NPO等

- ① 堀川遊覧船、宍道湖の漁の漁船をはじめ水上交通のエネルギーを考える。
- ② 太陽光、風力以外の新たな自然エネルギーの導入を検討する。
- ③ 全国の自然エネルギーが普及している場所を視察して学び、自分たちができることを考えて実行する。

自然エネルギーの発電・送配・販売等に関わる事業者

- ① 自然エネルギーを取り扱う事業者は、松江市内の地域資源を活かした自然エネルギー生産・活用の可能性について地域や行政に情報発信する。
- ② 限定的なエリアごとに小水力等の実現可能な発電システムをつくる。
- ③ 小水力発電装置の販売代理店、設置・維持管理の会社を起業する。

行政

- ① 松江市の中でもエリアによって特徴が違うので、その特徴に応じた自然エ

エネルギーの活用の仕方を考え、有望地の選定・公表をする。

- ② 地域から発信された情報や他県域における事例から学び、松江市に合う自然エネルギーとゾーニングについて考える。
- ③ 洋上風力発電所のように大容量の発電が可能な施設の設置を検討する（美保関などが候補地にならないか）。
- ④ 市内に多くある水路に小水力発電を設置し、『ここで発電しています！』など看板で市民に周知することで、自然エネルギーへの関心を高める。
- ⑤ 防災、景観、都市計画（開発）の観点からも、自然エネルギー発電の設備について特に広い敷地を要する場合は、改めてゾーニングについて慎重に検討する。

《市民参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- 中海や宍道湖で洋上ソーラーの活用を考える。水力だけでなく水面の活用も考えられないか。
- 松江市の地域資源を活用した自然エネルギーについて考えているが、原発はすでに松江の資源になっている。観光面では原子力館、まちづくり面では避難訓練など、他県からも参考にしてもらえるようになっているように思う。

5. 「自分ごと化会議」をはじめとして、まちづくりや地域課題について多様な市民が対話する場をさらに作る。

自分ごと化会議のように無作為抽出の手法を活用すると、これまでまちづくりや行政と関わりのなかった人も多く参加する。行政としてもこのような場を作り、様々なまちの課題について議論することで、市民と行政の距離感が一層近づき、また、新たな発見が生まれることも期待できる。さらに、行政だけでなく地域や NPO、企業なども主体となって市民対話の場を作り、より多くの人々が「自分ごと化」することを目指す。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 今回の会議の特徴や意義を知り合いに伝える。

地域

- ① 地域の景観や自然エネルギー導入による影響などについて具体的に話し合ったり、理想的なあり方を模索したりする。
- ② 講演や簡単な実験など、自然エネルギーについてのワークショップを行い、自然エネルギーの地産地消について親しみ、理解する場をつくる。

民間企業、
NPO 等

- ① 市内の NPO などで市民が議論する場をこれまで以上に作る。

自然エネルギーの
発電・送配・
販売等に関
わる事業者

- ① 何かを決めてから住民説明会を開くのではなく、決定する前の段階から、住民としっかりコミュニケーションをとる（合意形成がとれるよう積極的に情報発信をする）。
- ② 地元の意見を尊重しながら、交流を活発に行う。自然エネルギー設備設置する場合も目的などを明確にし、合意形成のためにきちんと説明会を行う。

行政

- ① 【市】一方的に自然エネルギーの現状や課題について発信するだけでなく、今回のような市民との対話の場を設ける（多様な世代が参加できるように工夫する）。
- ② （普段まちづくりの会議などに参加しない）子ども達や若者が自然エネルギーなどについて考える（知識だけでなく）場を設ける。
- ③ 自然エネルギーについて地域、事業者、行政の意見を調整するために、当事者による対話の場を作っていく。
- ④ 自然エネルギー以外のテーマでも、行政主催で自分ごと化会議の開催を検討する（週末に開催するなど、市民が参加しやすいように工夫する）。

《市民参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- 自然エネルギーの普及を進めない立場からの意見も大切にする。
- 2050年脱炭素社会の可能性や意義について、まだまだ理解が進んでいないと感じる。市民それぞれが身のまわりの人と一緒に学習したり、会話したりすることが大切であるし、行政としても今回の自分ごと化会議のような市民が懇談できる場を設ける必要があるのではないか。
- 小規模（50kw以下）の太陽光パネルの設置の際、行政がチェックする仕組みがないことは課題である。まずは市民一人一人が関心を持って、規制やルールを作ってもらうために動く必要がある。また、設置を行う企業側も地域のどこに設置するべきなのかを考え、設置の際には関連する地域住民や行政と話し合いの場を設けて、十分議論する必要がある。行政側もこうした声を拾い上げて、必要な規制・ルール作りを行い、それを周知していくことが必要と考える。

その他の意見

- 動物、植物、生き物たちが豊かに生きられる環境を守ることが私たち人間の未来を守ることになる。
- 松江や島根で、何を推進していくのかはとても重要なこと。
- 行政職員も地域の担い手のひとりなので、立場上できないこともあるかもしれないが、市民から頼って欲しいと思う人もいるはず。
- 再生可能エネルギー発電促進賦課金を電力の利用者から集める仕組みについて、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を見直す必要がないか。

第 2 期自分ごと化会議 in 松江 ～自然エネルギーってどげかね？～

市民参加者一覧

安達 善子	飯塚 梯子	大島 大	大谷 泰三
大濱 陽子	勝部 裕三郎	加納 敦子	木谷 有里
木戸 健一郎	齋藤 有	澤田 香純	仙田 琴音
高橋 勝司	田中 大地	寺本 達夫	常盤 遥奈
中川 昇	長廻 千恵子	山本 顕子	松田 英将
松本 正			

※ 名前の公表に、承諾された方のみ掲載しています。

●第 2 期自分ごと化会議 in 松江の資料

第 2 期自分ごと化会議 in 松江で行ったアンケート結果等の資料は、下記の QR コード先でご覧いただけます。



自分ごと化会議 in 松江～自然エネルギーってどげかね～
 (第 2 期) 会場参加者アンケートまとめ

回収数：13 枚

1. 自分ごと化会議 in 松江へ参加し、お気づきの点がありましたか？

満足	やや満足	どちらとも 書かない	やや不満	不満
8 枚 (61%)	2 枚 (15%)	1 枚 (8%)	0 枚 (0%)	0 枚 (0%)

※アンケート結果をグラフ化したイメージです。

【1】について、上記質問の理由

- 満足に至るのに、いろんな人の意見が聞け、自分も意見を言えるのが良かったです。そのほか、専門家の話を聴くのはとても勉強になりました。お話しが面白かったです。
- 会場が水戸川の、景色がきれいだったので良かったです。
- 会場が新しく、フレンドリーな感じが良かったです。
- 会場が水戸川で、自然エネルギーの話を聞けたので良かったです。また、自然エネルギーの話を聞けたので、とても勉強になりました。また、自然エネルギーの話を聞けたので、とても勉強になりました。
- 会場が水戸川で、自然エネルギーの話を聞けたので良かったです。また、自然エネルギーの話を聞けたので、とても勉強になりました。
- 会場が水戸川で、自然エネルギーの話を聞けたので良かったです。また、自然エネルギーの話を聞けたので、とても勉強になりました。
- 会場が水戸川で、自然エネルギーの話を聞けたので良かったです。また、自然エネルギーの話を聞けたので、とても勉強になりました。

2. 自然エネルギーについて、お気づきの点がありましたか？

満足	やや満足	どちらとも 書かない	やや不満	不満
7 枚 (54%)	4 枚 (31%)	1 枚 (8%)	0 枚 (0%)	1 枚 (8%)

※アンケート結果をグラフ化したイメージです。

【2】について、上記質問の理由

- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。

3. 自然エネルギーについて、お気づきの点がありましたか？

満足	やや満足	どちらとも 書かない	やや不満	不満
7 枚 (54%)	3 枚 (23%)	2 枚 (15%)	0 枚 (0%)	0 枚 (0%)

※アンケート結果をグラフ化したイメージです。

【3】について、上記質問の理由

- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。
- 自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。また、自然エネルギーについて、お気づきの点がありました。

アンケート結果のイメージ

賛同人のみなさん

片岡佳美（島根大学教授）
加藤秀樹（政策シンクタンク構想日本代表）
筒井敏行（前香川県三木町長）
持田陽平（シンガーソングライター）
山中光茂（在宅医療医師、前松坂市長）
手塚智子（市民エネルギーとっとり、第1期問題提起者）
土光 均（米子市議会議員、第1期問題提起者）
新田ひとみ（住民目線・山陰ネットワーク事務局長）

「自分ごと化会議in松江」実行委員会メンバー

後藤 展枝	共同代表	第一期市民参加者
毎熊 浩一	共同代表	島根大学法文学部教授
福嶋 浩彦	共同代表	政策シンクタンク構想日本理事
大谷 怜美	事務局長	市民自治を考える会・松江 代表
匿名希望（子育てしながら働く主婦）	会計	
坂本 拓三	実行委員	第一期市民参加者
早瀬 眞知子	実行委員	第一期市民参加者
伊藤 伸	実行委員	構想日本総括ディレクター
永由 裕大	実行委員	構想日本スタッフ
和田 良	実行委員	構想日本スタッフ
長曾我部 まどか	実行委員	まちづくりファシリテーション研究会 代表
畔田 南都美	実行委員	島根大学
石原 茜	実行委員	島根大学
川上 歩夢	実行委員	島根大学
蔵富 礼	実行委員	島根大学
幸野 靖子	実行委員	島根大学
佐伯 友翼	実行委員	島根大学
坂本 裕樹	実行委員	島根大学
澤田 香純	実行委員	島根大学
宅見 涼花	実行委員	島根大学
竹田 龍矢	実行委員	島根大学
田中 拓磨	実行委員	島根大学
常盤 遥奈	実行委員	島根大学
吹野 真彩	実行委員	島根大学
松原 亮和	実行委員	島根大学
森上 和也	実行委員	島根大学



全国初。
住民による
住民のための
無作為抽出の住民協議会

賛同人の皆様、後援をいただいた皆様、
クラウドファンディングや直にご寄付をくださった皆様
全国から傍聴をいただいた皆様、応援と関心を寄せてくださり、
ありがとうございました。

— 後援 —

(五十音順) 朝日新聞松江総局 / グリーンコープ生協 (島根) / 国立大学法人島根大学
小松電機産業(株) / 山陰中央新報社 / 産経新聞社 / 島根銀行 / 島根県中小企業家同友会
(株)島根日日新聞社 / 新日本海新聞社 / 毎日新聞松江支局 / 中国新聞社 / 松江土建(株) /
読売新聞松江支局

お問い合わせ先

自分ごと化会議
in松江 実行委員会

事務局

〒690-0015松江市上乃木4-20-36コーポ丸山205号
TEL 070-5672-0390 (担当: 大谷怜美)
E-mail jibungotoka@gmail.com

これまでの経過はブログで! ameblo自分ごと化会議in松江
<https://ameblo.jp/jibungotokakaigi>

